環境パートナーシップちば だより
— つながれ ひろがれ —
Vol.７２
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043―246-2180
ＦＡＸ 043―246-6969

―平成 21 年度環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業報告会―
ELCo 誕生

当会の 21 年度の主な事業として活動してきた、平成 21 年度環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業の報告会を開催しました。

日時は、3 月 12 日（金）午後 2 時 30 分～4 時 50 分、会場は、きぼーる（千葉市中央区）会議室 2・3 でした。この事業の概要については、既に本誌 70 号（平成 21 年 11 月 30 日発刊、環パホームページ http://kanpachiba.com/に全文掲載）で紹介しました。

この事業は、当会と GONET、NPO 法人千葉自然学校、千葉県環境政策課、千葉県教育庁教育振興部指導課、千葉県環境研究センター、千葉県 NPO 課との協働で展開してきました。

当会は主に事務局のとり取りまとめを行い進めてきました。この事業は、市民団体はじめ、企業や行政、学校の協力をいただき、正に、協働事業だからできたと実感しています。

報告会の参加者は、事業に参画したワークショップのメンバー、企業、行政、市民団体など 50 名でした。プログラムは、事業の趣旨説明、環境学習コーディネーターの事例報告、事業の経過報告、意見交換会でした。事例報告は、次の 3 事例でした。

(A)「地域課題解決型「鋸南町スイセン株分け環境学習体験のコーディネート事例」
　上地　智子氏　NPO 法人千葉自然学校
(B)「総合的な学習の時間のコーディネート事例」
　市野　敬介氏　NPO 法人企業教育研究会
(C)「企業・市民団体と学校をむすぶ」
　青木　恵子氏　市川市環境清掃部環境政策担当

成果品としては、ワークショップの中で、環境学習コーディネーターの名称は長いので、愛称として ELCo（ Environmental　Learning Coodinator の略）と決めたこと。さらに、ELCo のハンドブックを作成しました。このハンドブックは、ELCo がコーディネートする際に活用するものです。ハンドブックは A5 サイズ 32 ページで、その内容は、第 1，2 章は基本事項の解説、第 3 章は環境コーディネーター活動事例、第 4 章はコーディネーターの流れ、第 5 章は参考資料です。

また、ELCo 養成講座カリキュラムの作成と ELCo を広く周知するために、チラシを配布すると報告しました。配布先は、学校へ 5,000 部、市民団体、企業、行政に約 5,000 部の予定です。

意見交換会では、市での環境活動を進めていきたいが、団体情報など知るには？ELCo が活躍するには？資金は？などご意見をいただきました。ELCo は、社会という土壌に芽を出した状態です。今後の活動としての課題は、これを大きく育て花を咲かせるのは基本的には社会のニーズですが、ニーズを作り出す努力次第という側面もあるため、これからは市民・企業・行政・学校が協働してニーズ開発とともに実践例を増やすことが特に大切になると思います。報告会は、約 2 時間で終了しました。

終了後、ワークショップに参加したメンバーと事業実施団体で、今後の活動について話し合いを持ちました。この事業テーマは県から提案されましたが、平成 22 年度の環境政策課の事業としての実行が困難なため、今回の事業に参加したメンバーで、ELCo の会(環境学習コーディネーターネットワークの会)を設立しました。当会は、ELCo の会の事務局として今後もかかわることになりました。これから、ELCo の会の活動が展開できるように進めていきたいと思います。

（文責：広報部）

東京ガス㈱施設見学会
～袖ヶ浦工場と幕張地域冷暖房センター～

市民と企業の連携実践として、3 月 15 日(月)に東京ガス㈱千葉支店と環境パートナーシップちばの共催で標記見学会を実施した。参加者は 31 名で、千葉駅前からバスで袖ヶ浦に向かった。

【東京ガス袖ヶ浦工場】

袖ヶ浦工場は 1973 年に操業を開始した日本で初めての LNG(液化天然ガス)専用工場で、LNG から都市ガスを製造している。LNG の世界最大級の受入基地でもある。天然ガスは-162℃で液体になり、体積が 1/600 になるのでタンカーで大量輸入が可能になる。液化の過程で硫黄分などの不純物が除去され、燃焼時に SOx、NOx、CO_2 などの汚染物質が他の石油系燃料に比べて少なく、地球にやさしい燃料だ。可採埋蔵量も多く、安定供給可能で日本の基幹エネルギーとなっている。

同工場の製造能力は 3,230 万㎥/日で東京ガスの約半分の都市ガスを製造している。輸入元はブルネイ、マレーシア、オーストラリア、アラスカなどで、桟橋に着いたタンカーから 20 基の地下貯蔵タンクに移される。最大の貯蔵タンクは直径 64m、深さ 44m、14 万㎥の LNG を貯蔵できる。LNG は海水などで温めて気体に戻し、熱量を調整し、都市ガス特有のにおいを付けて高圧ガス輸送導管、またはタンクローリーなどを通じて需要家、各家庭に送出される。なお、隣接する東京電力火力発電所とは、受入れ設備、LNG タンクの共同使用や、温排水の有効利用など互いに経済性・省エネを最大限に追求した立地計画となっている。

LNG を使った実験も披露され、LNG をビーカーに入れ、生花を浸すと瞬時にバリバリに凍ってしまう。軟式テニスボールを入れてもすぐに凍り、床に落とすと全く弾まずに壊れてしまった。LNG を三角フラスコに移し、ゴム風船の口を固定すると、常温ではどんどん気化しているため風船が膨らみ、口を縛って放すと上昇した。天然ガス(メタン)は空気より軽いことを確認した。LNG は無色透明で、実物を初めて見た人が多く、興味深い実験であった。

天然ガスで膨らんだ風船

次に、場内を専用バスで見学した。天然ガスを利用した発電所や風力発電施設があったが、風力発電施設は風不足で発電量はゼロだった。緑豊かな樹木で区画された巨大な貯蔵タンクを間近で見ると圧倒される感じであった。

【幕張地域冷暖房センター】

幕張メッセ北ホールの西に隣接する同センターは、幕張副都心の 61.6ha(東京ドーム約 13 個分)を対象に、地域冷暖房用の熱を供給する施設で、1989 年から稼働している。地域冷暖房とは、1 か所で、冷水・蒸気などの「熱」を一括して作り、一定エリア内の複数ビルへ配管を通じて供給する集中型システムだ。供給先では冷暖房のほか、厨房・風呂などの給湯、クリーニングのスチームなどに使用される。このエリアには幕張メッセを始め、オフィスビル 2 棟、ホテル 5 施設、商業施設 1 施設がある。燃料は東京ガスの都市ガス(天然ガス)を使用している。地域冷暖房を導入することで燃料使用量は 3/4、CO_2 は年間 24,000 トンの削減効果があり、地球温暖化防止、さらに SOx などの大気汚染防止にも貢献する。また、熱源設備の一括管理と熱負荷平準化による省エネ効果ももたらす。

センターには大小 2 棟のピラミッド型の建屋があり、大ピラミッドには大型ボイラー5 基、大型冷凍機 8 基が設置され、6.5℃の冷水、170℃の蒸気を供給している。さらに 2007 年に稼働した小ピラミッドにはガスエンジン発電機 2 基、冷凍機 2 基、排熱回収ボイラー2 基を設置し、電力と冷水を生み出している。これはガスコージェネレーションシステムといわれ、蒸気、温水を回収利用することにより、エネルギー総合効率 77.1%で運用している。ここでできる電力はセンター内で使われ、余剰分は売電している。大ピラミッドの 3 階はフロア全体が冷却塔になっている。屋外は騒音を 75 デシベル以下に抑える基準があり、防音設備も充実していた。

幕張地域冷暖房センター

説明のあと、建物の各フロアを見学した。残念ながら当日は設備が稼働しておらず、それぞれの機器は大型でスケールメリットは感じられたが、説明が少々専門的で難しかった。

活発な質疑応答の中では、ガスでなぜ冷水・冷房なのか、という本質的な質問があり、丁寧に説明してくださったが、専門的なのでここでは割愛する。

最後に参加者に見学会のアンケートで感想を書いていただいた。「天然ガスが地球にやさしいことを再確認した」「地域冷暖房で地球温暖化防止につながることを期待する」などの声があったが、最も多かったのが「説明の方の丁寧な対応に好感が持てた」だった。東京ガス関係諸氏にいろいろご配慮いただき、改めて深謝申し上げます。　(文責：小関)

第５回川の日ワークショップ 関東大会

水辺ですてきな！体験を考える仲間代表　桑波田 和子

日時：平成 22 年１月３１日（日）10：00～17：30　場所：大宮ソニックシティ

このワークショップは、川や水辺の環境の保全や改善について、どのように取り組んでいけばいいのか、また、どのような事業のあり方が望ましいのか。川を管理する立場と、川と常に付き合い将来にもかかわり続ける住民の立場として、「いい川とは、いい水辺とは何か」を自由に柔軟に探ろうということを目的に開催されています。

私たちの団体は、印旛沼流域で活動をしている仲間が、主に子どもたちを対象とした「印旛沼子ども会議」を展開していくことを目的に、平成 19 年に会議を設立しました。一方、北千葉道路は、北総線の成田空港への全線開通と併せて工事が急ピッチで進んでいます。それに伴い、北千葉道路建設事務所が環境教育及び北千葉道路のＰＲ・理解を目的として、印旛沼周辺の小学生やボーイスカウト等を対象に「印旛沼子ども会議」を開催し、当団体も協働して活動しています。

具体的には、湧水地点や谷津田の観察、船から北印旛沼観察、道路工事現場、水草再生の現場などの体験活動です。また、いには野小学校との連携で学校ビオトープ、北千葉道路側の調節池をビオトープとして活用することに向けて、話し合いや現地観察など活動しています。これらの体験活動を通して、気づいたことなど話し合い、開発と環境を学ぶ場としていきたいと願っています。ワークショップ大会には、以上の活動を紹介しました。

大会は、3 次選考まであり、選考委員は、国土交通省、大学、環境ジャーナリスト、埼玉県生態系保護協会、NPO 団体等から構成されていました。事務局は、NPO 法人あらかわ学会でした。

川の日ワークショップには約 20 団体がエントリーし、千葉県からは、当団体と浦安水辺の会、印旛沼手賀沼あっぷ協議会の 3 団体でした。小野学園女子中学校、向上高校生物部、多摩川源流大学、荒川源流ログハウス技師会など、多方面からの発表もあり、ユニークな活動が発表されました。明るく楽しい活動発表で、6 時間 30 分の大会でしたが、時間があっという間に過ぎてしまいました。グランプリに選ばれたのは、「新河岸川流域コミュニケーションマップ」を発表した、柳瀬川流域水循環市民プロジェクト研究会（東京都清瀬市）でした。Web-GIS を活用した、水循環モニタリングや、流域資源の書き込みなどをマップに反映したことが評価されました。

第 7 回印旛沼再生行動大会

～恵みの沼を未来に～

大会の概要

開催日時：平成 22 年 2 月 4 日 13：00～17：00
場所：佐倉市民音楽ホール
プログラム：
第１部　①挨拶
　　②長期計画発表
　　③印旛沼再生宣言及び署名式
　　④パネルディスカッション
　　「沼の再生に向けて」
第２部　①印旛沼わいわい会議
　　（2009．10．17ｉｎしすい）の報告
　　②特別講演・パネルディスカッション
　　「いんばぬまのいまとむかしを語る
　　～いんばぬまの恵みと暮らし～」

大会の感想

参加者は会場の席の 7 割程度を埋めていたので、まずまずのようだ。

会は、壇上に並んだ関係行政機関の代表 50 名ほどの紹介と来賓挨拶から始まった。

次の沼の再生に向けたパネルディスカッションでは、流域内の自治体の長がパネラーを務め、各パネラーは上下流側のいずれかに属するが、上下流の利害が必ずしも一致しない問題をどのように解決するかという議論になった。その中で、財政負担法についての新しい枠組みの導入などにも言及されたことが印象深かった。なお、このような上下流問題を論ずるならば、印旛沼の水の大口の受益者は流域外にあるので、流域外の自治体も入れた取り組みが必要だと思った。

「いんばぬまのいまとむかしを語る」は、生涯にわたり印旛沼のほとりに住み、災害の不幸と自然の恵みを実体験してきたパネラーの語り合いがあった。この語りから、印旛沼が命ある存在であり、次世代に大切につないでいかなければならない、かけがいのない存在であるとの認識を強めることができた。水循環系の健全化とは、水は物理的存在であるが命の源であるから、人間と自然の命の循環系の健全化でもあるともいえる。

（文責：牧内）

千葉地域 ESD 意見交換会の開催

環境パートナーシップちば代表　加藤 賢三

2005 年より、国連のキャンペーンとして、「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」（UNDESD：United Nations Decade of Education for Sustainable Development）がスタートして、今年は、その中間年に当たります。日本国内でも、様々な形で持続可能な開発のための教育（ESD）の取り組みが行われていますが、関東地方での ESD の普及啓発の一環として、千葉での地域ミーティングが開催されました。ESD は環境教育だけでなく、平和や人権といった概念も含まれる大きな概念です。この意見交換会では、ESD について少しでも理解していただくのが趣旨です。

ちなみに、環境パートナーシップちばでは、平成 20 年 6 月に、ESD を学ぶ機会を作りました。そして、翌年の平成 21 年 3 月には、環境省の方に講師をお願いして、ESD フォーラムを開催した経緯があります。

今回の千葉地域 ESD 意見交換会は 3 月 17 日に船橋市女性センターで、16 名の参加者のもとで行われました。環境省関東地方環境事務所の主催で、環境パートナーシップちばと一般社団法人環境パートナーシップ会議が運営に当たりました。

主な事例発表は以下のとおりです。

1．「身近な環境での発見から市民主体の環境活動へ」横山 清美氏（浦安自然まるごと探検隊、NPO 法人 千葉自然学校）
2．「パートナーシップと環境保全の輪をひろげる ーエコメッセ in ちばー 」ー小川 かほる氏（千葉県環境研究センター）
3．「環境パートナーシップちばの活動」桑波田 和子氏（環境パートナーシップちば）
4．「エコメッセ 2010in ちば」庭野 裕氏（東邦大学大学院）
5．「四街道における平和推進活動」高橋 晴雄氏（アオギリの会）ほか。

ここでは、主として、高橋 晴雄氏の「四街道における平和推進活動」を紹介します。

現在、3 万 5 千世帯の四街道市において、平和推進に関する署名を世帯数に相当する 3 万 5 千名を目標に集めている。数日前までに集まった署名は、21,500 名分で、重さにして 30 キログラムとなり、これを船でニューヨークの国連に送ったところだという。なぜ、こんなに、多くの署名が集まったのだろうか。平和運動は、特別な人がやっていると思われがちだが、普通の市井の人がやっている。メダカ会の会長をしていた方が、たまたま市長になり、そのときにこの話を持ちかけた。当然ながら、平和運動に反対する人はいない。四街道市の市議の方には全員署名をもらった。例えば、自然環境保護団体、福祉関連の団体、文化団体職員、被爆者、ケアマネージャー、輸送ボランティア、赤十字団、版画家、合唱団、商工会議所などだ。垣根を取り払うことが決め手になった。私は、それほど、ESD を意識しているわけではないが、振り返ってみると、いのちのつながりが、キーワードだ。「いのちのつながり」、「子孫のためにできること」、「笑顔」などを共感しあうことによって、垣根が取り払われている。

千葉ブロックで話し合った内容は、3 月 23 日開催の関東ブロック ESD ミーティングで報告しました。関東ブロック ESD「ブロックミーティング」は環境省関東地方環境事務所の主催で、3 月 23 日に地球環境パートナーシッププラザで開催されました。関東ブロックでは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県からの発表がありました。その関東ブロック ESD 事例紹介で印象に残った話は、山梨県の「もったいない甲斐ネットワーク」の岡 尚志さんの「有難いと思う」ことの大切さについての話です。

「有難いと思う」は、感謝につながることでもあるが、同時に、言葉の元の意味からして「めったにないこと」でもある。そこから、「もったいない」ということと、感謝することで、人とひとが共感する。そこから、「絆(きずな)」、「つながり」が生まれる。これは、ESD の源流の一つではないかと感じました。

ここで、千葉地域ミーティングでの高橋氏の、「いのちのつながり」、「子孫のためにできること」、「笑顔」なども ESD をわかるキーワードになるのではと思います。

いま、環境問題が、新たな局面を迎えつつあるといわれています。その問題に気付くのは、地域の課題の中にあり、その気づきを助ける可能性を持つものが「ESD のこころ」なのではと思いました。

印旛沼里山ウォーキングマップについて

千葉県成田整備事務所（前県土整備部河川環境課）　林　薫　氏

「印旛沼里山ウォーキングマップ」ができました！このマップは，印旛沼流域に数多く存在するすばらしい里山環境を巡り歩く無数の散策ルートをネットワーク化し、１枚のマップにまとめたものです。

印旛沼流域の数々の里山環境は、そのひとつが「にほんの里１００選」（選定委員長：山田洋次監督）に選ばれるなど全国に（もしかしたら世界中に）誇るべき「地域の宝」といっていいでしょう。

作成に当たっては、「いんば里山歩き隊」と称する、市民・行政双方の有志から成るプロジェクト・チームが編成され、足かけ１年近くに及ぶ現地踏査、情報収集、編集会議などを経てまとめられました。環境パートナーシップちばの皆さんにもご協力いただき，ありがとうございました。

マップの基本的なスタイルは、スイスやドイツなどで広く使われているワンダーカルテを参考としたもので、文字どおり網の目状にネットワーク化された散策ルートの合計距離は約１０００ｋｍに及び、休憩スポットや見どころなどの情報も盛り込まれています。

これにより、だれでもすばらしい印旛沼の里山環境に手軽にふれることができるようになります。また、流域内外の人々が「地域の宝」の価値を再発見・再認識することにより、地域が「誇り」や「活力」を取り戻すきっかけの１つにもなることでしょう。

このマップはまだできたばかりで、最終的な完成品ではありません。今後さらに使いやすく充実した内容になるよう「みためし」方式で、みなさんといっしょに育てていきたいと思います。お問い合わせやご意見は、県庁河川環境課(043-223-3155)までお気軽にどうぞ！また、環境パートナーシップちばでも入手できます。

これからいい季節ですね！このマップを片手に印旛沼方面にぜひおでかけください。きっとすてきな出会いや新たな発見があることでしょう。それではお気をつけて！！

平成２２年度環境パートナーシップちば総会開催のご案内

環境パートナーシップちばは、平成９年に設立され、今年は 14 年目に入りました。設立以来、環境保全活動等を推進するために、市民団体・企業・行政等のパートナーシップを図りながら活動してきました。

現在、国内・国外で環境やその他の方面で多くの課題があります。課題解決に向けて地域で確実に活動し、連携しながら広げていくことの大切さも強く感じています。

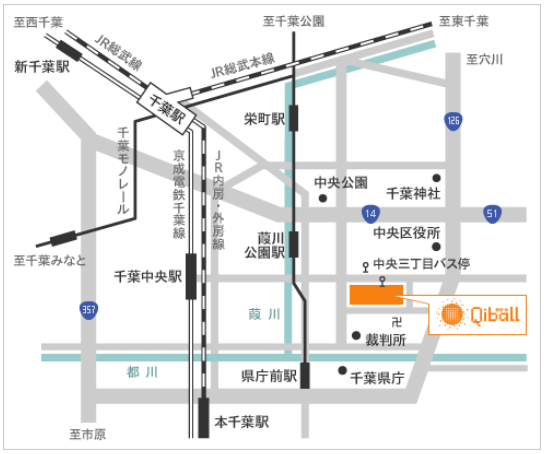
当会は、団体会員、個人会員の方で構成されています。ぜひ多くの方のご参加をいただき、２２年度はどのように歩んでいくのか？ご意見をいただきたいと思います。

また、交流会の場に、団体活動紹介の時間を設けてありますので、ぜひご報告をお願いします。

日時：　平成２２年５月８日(土)
場所：　きぼーる　会議室４
（千葉市ビジネス支援センター15 階）
（千葉市中央区中央４丁目 5-1）

第１部　総会
☆平成２１年度事業・会計・会計監査報告
☆平成２２年度役員改選・新役員紹介
☆平成２２年度事業計画(案)・予算(案)

第２部　交流会
※報告ご希望の団体（個人も可）は、４月１６日までに、事務局までお知らせください（プロジェクター使用可能です）。
※事務局　TEL：043-246-2180
e-mail：kuwahatak@hotmail.com



★第 42 回環境パートナーシップエコサロン報告★
いのちの大切さ－環境と平和

日 時：2月18日(木)午後6時30分～8時30分、会 場：千葉市民活動センター　会議室
話題提供：高橋 晴雄 氏(環境パートナーシップちばアドバイザー)

高橋氏は、四街道市を拠点に、環境問題をはじめ、平和・核廃絶、福祉介護、障害者、ゴミ問題など、幅広い市民活動を精力的にされております。当会の副代表を経て、現在はアドバイザーとしてさまざまな提言をいただいております。今回は「戦争こそが、人間が引き起こす最大の環境破壊である」という思いから、「いのちの大切さ」について、地域に根づいた活動を通じてお話していただきました。

1．私たちは平和を選びます

今年 5 月の国連「核不拡散条約(NPT)再検討会議」に向けて、四街道から核不拡散をアピールしようとして「私たちは平和を選びます」という署名活動をしています。実に多様な市民の方たちが署名してくださいました。この活動については、本号 p.4 に詳しく述べられております。

2．持続不可能な社会

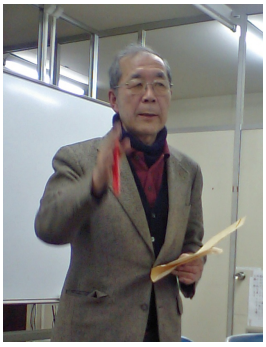
今や温暖化、放射能汚染、黄砂、海流変化、アマゾン流域の砂漠化など、地球規模の環境問題には国境がなくなっています。大量生産・大量運搬・大量消費・大量廃棄の一連の流れは環境破壊や格差、人権侵害を生みました。四街道市には 4 か所の縄文遺跡がありますが、多額のお金をかけて山を崩して更地にし、その結果 52ha もの豊かな自然が破壊され、野鳥が減り、湧水が涸(か)れ、田んぼは荒地になっています。

3．環境破壊の流れ

20 世紀前半は 2 回の世界大戦があり、ヨーロッパ、アジアの国土は荒廃しました。20 世紀後半は米ソ対立があり、戦争・紛争は 200 回にも及びました。正に戦争の時代だったのです。枯れ葉作戦によるベトナムのベトちゃん、ドクちゃん兄弟に代表される奇形児は実にむごいものでした。その後湾岸戦争、イラク、アフガンと現在に至るまで戦争による深刻な環境破壊は続いています。さらに、戦後日本の GDP、成長第一主義がもたらしたものは、水俣病や新潟イタイイタイ病、カネミ問題など 1 企業から始まりました。そして、更にそれが四日市、千葉など地域への生産集中による地域の生態系崩壊に広がりました。

4．21 世紀に入って

今世界では地球温暖化が進み、食糧自給率が偏在しており、戦争難民が増加しています。効率一辺倒の社会では、中央集中になり、上下関係が生まれ、人材・労働者が画一化されていきます。そうなると横とのコミュニケーションが不足し、横のエネルギーが使えないもったいなさを感じます。市民活動をしていると、特に男性にその傾向が強く、ボランティア活動、とりわけ福祉関係に参加する方が少ないと感じます。一方女性も、年功序列制度を前提にしていた夫の給料が減り始め、パートなどで働かざるを得なくなり、地域のボランティア活動に参加する人数が激減しています。対話の乏しさは物を作れない社会を招き、正に環境問題の現状は、「坂道の向こうにまだ見えない断崖があり、その断崖に向かって坂道を転げ落ちていくようなもの」ではないでしょうか。



5．ESD に思いを寄せて

一般には逆に言われていますが、私は「Think ローカル　Act グローバル」のやり方がよいのではないかと思っております。すなわち、弱い立場の当事者中心に考えるべきだと思うのです。体験に優るものはありません。私は不登校経験者の話に大変感銘を受けたことがあります。障害者用の施設を造るのになぜ障害者の意見を聞かないのでしょうか。体験を互いに対話する「場」を通して支え合って考えることが必要です。現在は皆、地位、名誉、お金など形のあるもの、数えられるものばかりを追っているのですが、私は障害者団体にかかわって、目には見えないものにも世の中を動かす力があることに気付かされました。

現状を踏まえて将来を見る「フォワキャスト」ではなく、あるべき姿・夢を描き、それと現実の間にはしごを架ける「バックキャスト」の考え方(スウェーデン方式)が重要と思います。

大変幅広い活動の実体験に基づいた、多くの示唆に富んだお話で、その後の質疑応答も活発に行われました。同氏は好奇心が旺盛で、人との会話が大好きな方に違いないと思いました。紙面の関係でこの会報に載せきれなかったお話は本会のホームページをご覧ください。　(文責：小関)

団体会員紹介

丸山サンクチュアリ～日頃（ひごろ）の活動について～

丸山サンクチュアリ　斎藤　眞 氏

丸山サンクチュアリ活動の第一の柱は船橋市役所から委託されました「丸山の森緑地」と「藤原市民の森」の清掃委託業務の実施であります。毎月２回、１０～１５名のボランティアメンバーでそれぞれの森を清掃活動しています。「森の自然をいかに守るか」を心がけ、責任者から作業手順や特に注意すべきことの説明があり、遊歩道などの状況のチェック、枯れ木・倒木の有無の確認、私どもができる範囲内の剪定(せんてい)・伐採等の作業を行っています。毎回朝９時から３時間、雨の日は翌週順延という約束のもと活動を行っています。森に子どもたちがやって来て楽しそうにしているのを見ると、私たちの活動も価値があるな、という気持ちになります。参加者の男女別ではほぼ半々、年齢は平均 70 歳ぐらいでしょうか。高齢化の波は私どもの会にも押し寄せております。作業後は腹押さえとして“おにぎり”２個と漬物などを会が支給し、持ち寄りの品を食べながら作業の話などお互いで談笑するのが皆の楽しみであります。

第二の柱は毎月２回の自然観察会であります。近隣の公園・県外の珍しい野鳥がいる場所での探鳥会のほか、年３回を目途に船橋市の社教バスを利用して遠出の自然観察会を行っています。また、海老川調節池予定地周辺の一定の場所で探鳥会も行っています。鳥の種類や数の増加は自然の復元ということで、統計数値は「海老川調節池を市民で活用する会」を通じ関係部署に報告をしております。その他色々活動はいたしておりますが省略させていただきます。

藤原市民の森にやってきた法典小の２年生。
グループで観察したことを記録しています

私どもの活動で困るのは、ゴミの不法投棄であります。タバコの吸殻・ビン・カン・放置自転車・また可愛いワンちゃんの糞尿の落し物、等々。子どもたちの楽しみのためにと造った「カブトムシ牧場」は専門業者らしき者たちが破壊して盗み去り、遊歩道修理用の木杭や、湿地に設置した踏み石は持ち去られ、皆が楽しむラン類の盗掘、正月前には花木が盗難され。挙げればキリがありません。一般市民のモラルが余りにも低いことに私どもは唖然(あぜん)とするしかないのです。

環境を良くする運動と併行して、モラルの低い人たちへの何らかの対策があってこそ環境を良くし自然を取り戻した森・街づくりができるという気がする今日このごろであります。

私どもの主だった作業、そして悩みを愚痴として報告させていただきました。

運営委員会報告

２月運営委員会

日時：平成 22 年２月 18 日(木)午後４：00～
場所：千葉市民活動センター

【報告事項】
- だより 71 号
- 千葉市エコ体験スクール報告会
- エコメッセ 2010
- ESD 意見交換会
- わいわい歩き隊報告会

【協議事項】

《広報部》
- だより 72 号（資料あり）検討

《事業部》
- 東京ガス施設見学会

《事務局》
- 2010 年度活動方針
- 環境学習コーディネーター事業報告会
- 川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば

3 月運営委員会

日時：平成 22 年 3 月 24 日(水)午後 4：00～
場所：船橋市民活動センター

【報告事項】
・環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業報告会
・東京ガス施設見学会(資料あり)
・ESD 関東ブロックミーティング

【協議事項】
《広報部》
・だより 72 号、73 号(資料あり)
《事業部》
・BAY　FM 基金
《事務局》
・総会準備

お知らせ

第 7 回里山シンポジウム
テーマ：里山と都市
日時：5 月 16 日（日）10：00～17：00
場所：和洋女子大学　西館 1 階
主催：里山シンポジウム実行委員会
千葉県　ちば里山センター
㈳千葉県緑化推進委員会
問合せ：実行委員会事務局
Tel: 03-3824-9071
E-mail: minoruarao@tml.co.jp

第 6 回ちばし手づくり環境博覧会
テーマ：みんなで体感！エコラリー
日時：6 月 5 日～11 日
場所：きぼーる　アトリウム
主催：ちばし手づくり環境博覧会実行委員会
問合せ：千葉市環境調整課
Tel: 043-245-5199
Fax: 043-245-5553

第１３回船橋市環境フェア
テーマ：「みつけよう」
あなたができるエコ活動
日時：6月5日（土）１０時～１６時
会場：船橋市中央公民館
主催：船橋市環境フェア実行委員会
後援：船橋市教育委員会
問合せ：船橋市環境保全課
Tel: 047-436-2454
Fax: 047-436-2487

エコフェアいちはら
テーマ：次世代へつなごう！
人にも生き物にもやさしい街
いちはら
日時：6 月 5 日（土）10：00～15：00
場所：市原市民会館
主催：エコフェアいちはら実行委員会
問合せ：市原市環境部環境管理課
Tel: 0436-23-9867
Fax: 0436-24-1204

広報部より
1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。
HP：http://kanpachiba.com/

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　FAX　043―246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872　千葉県環境財団
環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		